



ちむ清らさあるひとの学び育ち(夢を育み生涯輝けるひとづくり)

鈴木 理美

公益財団法人 沖縄こどもの国
こども未来課 係長



プロフィール

1973年読谷村字楚辺生まれ。古堅小学校卒業。古堅中学校卒業。読谷高校卒業。沖縄キリスト教短期大学(保育科)卒業。1993-1995年沖縄キリスト教短期大学(事務局企画課)勤務。1995-1997年The Little Skool-House International(シンガポール)勤務。1999-2000年京都市立南保育所勤務。2000-2004年北谷町立第二保育所勤務。2004年~現在沖縄こどもの国(ワンドーミュージアム)勤務。(読谷村在住)

"日本一幸福度の高い場所"へ。

"親子"が感動できる場。

「現在、こどもの国のワンドーミュージアムで、子どもたちに遊びの中の学びというものを提供しています」。子どもという言葉がイキイキと飛び出す鈴木さん。「大切にしている視点は“親子”。生涯学習施設として、学校でもない、そして家庭でもないという位置づけで、子どもたちがのびのび遊ぶ場所。そこに親も参加して一緒に感動する。その“場”づくりに取り組んでいます」。

保育所、幼稚園、京都やシンガポールでも子どもに関する仕事を経験。今は“親子の新しい遊び場”的可能性をさらに目指して、仕事を続けているという。子育てのことを話すと目を輝かせる鈴木さんだ。

"知産地笑"の子育て支援。

「読谷村の魅力はなんと言っても“知産地笑”ですね。農業で村を活性化するというのがすごくいい。このキーワードから“発信”できれば、読谷村だからこそ“子育て支援”ができると感じます。



ワンドーミュージアムでは運営全体を統括



休日は畠を楽しむ



島袋 孝子

デイサービス活きる家 代表者

作業療法士・認知症ケア専門士
日本認知症予防学会会員



プロフィール

1976年読谷村字大湾生まれ。古堅南小学校卒業。興南中学校中退、古堅中学校卒業。読谷高校卒業。沖縄大学法経学部法学科卒業。結婚・出産後、沖縄リハビリテーション福祉学院作業療法学科入学・卒業。いづみ病院 認知症治療病棟勤務時代に株式会社一期一会を設立。2012年5月デイサービス活きる家開所。座右の銘「一生勉強一生青春」。尊敬する人「父」。(読谷村在住)

認知症の方の力になりたい。

高齢者にいい場所をつくりたい。

「資格取得後、高齢者関連のある病院に勤務しました。徐々に病棟の中での患者さんの限られた生活、自分の役割の見えづらさ等にジレンマを抱えてきたことがきっかけで“高齢者にとっていい時間を過ごせる場所”を作りたいとデイサービスを立ち上げたのです」。やさしい笑顔で、高齢者への眼差しを向ける島袋さん。

「利用者の中には、認知症をかかる方もいらっしゃいます。当事者の気持ちを少しでも理解し関わらせていただくという思いはスタッフ共有の思いです。音楽療法があることも特長の一つです。回想法の一つであり精神的な安定やコミュニケーションの広がりもみられるのです。また、作詞：利用者のみなさん 作曲：音楽療法士で『生きる家のうた』というオリジナルソングも作りました。興味のある方はぜひご連絡ください(笑)」。

島袋さんが朗らかに笑った。

村民とのつながりを身近に感じて。

「読谷村の魅力は、人と人の繋がりですね。みんなの力が結集しやすい環境ですよ。企業と行政との連携もい



コグニサイズ(頭を使った課題+体を使った課題を同時に使う)
で心身機能を高める



利用者とじゃがいもの収穫を楽しむ

いですね。商工会女性部では、若い部員が徐々に増えています。私は商工会の会員ですが、福祉なのに商工業?というもどかしさも確かにあります。そこで“ふるさと納税”を福祉と商工とを、ぜひ関連できればと考えています。納税では福祉は商品やモノではないが、そんなふうに“ふるさと納税”を考えたいですね」。

発想豊かなアイデアが次々と飛び出す島袋さんだ。

これからの読谷村。

「人と人を繋ぐ農業でいえば、ご近所さんが利用者のために無償で畠を提供してくれています。畠では季節の野菜を収穫し、運動しながらみんなで楽しんでいます。それから、村はいろんな人材を村外から呼び込んでいます。その良さを、なんとか“福祉”に繋げればいいですね。農業以外でも、施設利用者と商業や工業分野との繋がりを考えていきたいです。地域のみんなが、施設を支えるというそんな村の環境をつくっていきたいです」。読谷村だからこそできるという可能性に、島袋さんが顔を輝かせた。